

## 第5回中丹管内二級河川流域治水協議会の開催結果

■開催日時：令和4年11月10日（木） 14：00～15：00

■開催方法：Web 会議<zoom>

■参加者：9名（別表参照）

### 結 果

■河辺川他5水系の流域治水プロジェクトを策定した。

■策定済の伊佐津川、高野川水系の流域治水プロジェクトのフォローアップを実施した。

### 主な発言内容

#### 【開会挨拶（京都府建設交通部長）】

- ・近年の気候変動に伴う、水災害の激甚化・頻発化への対策として、「国土強靱化3か年緊急対策」や「5か年加速化対策」を用いて、流下能力の向上等の取組に努めている。その結果、全国的に被害の低減、災害対応力の向上といった一定の成果が確認できている。
- ・一方で、想定以上の外力に対しては、ハード整備のみでは生命と財産の両方を守ることは難しいため、生命を守ることを優先し、ソフト対策を重点的に実施していくべき。
- ・ソフト対策の実施に尽力したうえで、あらゆる施策を組み合わせ、生命・財産を守っていく計画を連携して進めていくことが重要と考える。そのような連携の体制をつくる場として、本協議会が機能すればと考えている。

#### 【意見交換】

（舞鶴市）

- ・舞鶴東地区には多くの河川が流れ込んでいる。今夏の台風14号のように高潮と大雨が重なると、体制を整えていたとしても浸水被害が発生するため、市としても対応していく。
- ・京都府には従来から舞鶴市西地区の浸水対策を進めていただいているところで、新たに舞鶴市東地区の浸水対策についても進めていただいております。東地区にて浸水対策協議会も立ち上げることができた。今後も京都府と協力し、舞鶴市も地元との間に入り、調整を進めていくため今後もよろしくお願いします。

（綾部市）

- ・河川管理者が行う治水対策に加え、流域関係者を含めた流域治水という考え方は効果的な治水対策と考えている。
- ・各関係機関の様々な取組事例を参考に、本市での対策・取組についても検討していきたい。
- ・京都府に対しては、引き続き河川管理者としての対策の実施と、流域関係者が実施する様々な取組に対し、支援をお願いしたい。

〈京都府中丹広域振興局 地域連携・振興部〉

- ・本部では、ソフト対策として避難行動タイムラインの作成を舞鶴市、綾部市と協力し、実施している。既に両市とは打ち合わせを実施したところであり、コロナ禍の影響もあり、中々進んでいないが、今後加速して進めて参りたい。
- ・避難行動タイムラインは作成が目的ではなく、作成により、地域全体で協働し、避難する気運が高まることと良いと考えている。このような趣旨を理解したうえで、各地域において少しでも防災意識が高まるよう、舞鶴市、綾部市には協力をお願いしたい。

〈京都府中丹広域振興局 農林商工部〉

- ・引き続き、ため池及び農業用水路の整備や森林整備、治山ダム等の流域治水に関わるハード整備を進めるとともに、併せてソフト対策として、ため池ハザードマップ、ため池点検野帳等（中丹独自の取組）を活用した点検研修会や治山ダム等の現場見学会を実施することで、関係機関と連携し地域で一体となった流域治水に取り組んで参りたい。

〈京都府中丹広域振興局 建設部〉

- ・河川管理者として、河川のハード整備を担っているところであるが、他の意見でもあったように、ハード整備を着実に進めていくことが我々の第一の責務と考えている。そのため、確実な予算等の確保に引き続き尽力する。
- ・ハード整備には地域住民の期待も大きいので、期待に応えられるよう着実に事業を進めて行きたい。
- ・流域治水プロジェクトに位置付けされることが、事業の推進の弾みになることを期待しつつ、積極的に取り組んで参りたい。

〈京都府水産事務所〉

- ・水産事務所は舞鶴漁港等の浚渫を担当しており、漁港の維持監理として今後も実施していく。

〈京都府港湾局〉

- ・各関係機関の流域治水の取組について、最下流で事業を実施している港湾部局として、大変感謝すると共に、大いに期待している。
- ・港湾局は、各流域の河口部を担っており、豪雨等の繰り返しによる土砂の堆積等が徐々に進んでいることを危惧している。河川の流下能力維持には、浚渫が重要であるため土木事務所と連携し、可能な限り実施していきたい。

〈国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局〉

- ・本局では、例年京都府内で新規事業を実施しているところで、中丹管内でも候補地があれば実施していきたいと考えている。また、新たな事業についても取り組んで参りたいと考えているため、機会があれば紹介させていただきたい。

〈京都府建設交通部〉

- ・財政審議会歳出改革部会の資料に、流域治水に関し、「ソフト対策に積極的に取り組むプロジェクトに対し、ハード対策支援を重点化すべき」といった記述がある。
- ・被害軽減のためにはソフト・ハード一体となった対策が必要。ソフト対策に積極的に取り組む地域に対し、ハード整備を重点的に支援することで、ハード整備が推進され、全体が安全になると捉えることができる。限られた予算がこのような考え方にに基づき配分される傾向にあることを踏まえ、ソフト対策も含めた地域の安全の確保に今後も連携して取り組んで参りたいと考えている。プロジェクトの策定完了に囚われず、各機関で対策に取り組んでいただきたい。

(別表)

機関名	職名	氏名	備考
舞鶴市	市長	多々見 良三	(代理)危機管理監：岸本 浩
綾部市	市長	山崎 善也	(代理)建設課長：仲井 涉
京都府 建設交通部	部長	濱田 禎	協議会会長
京都府 中丹広域振興局 地域連携・振興部	部長	和久 輝幸	(代理)総務防災課長：船越 理志
京都府 中丹広域振興局 農林商工部	部長	岡田 宏一	
京都府 中丹広域振興局 建設部	部長	西村 祥一	
京都府 水産事務所	所長	井谷 匡志	
京都府 港湾局	局長	苔口 聖史	(代理)港湾企画課長：村田 利幸
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局	局長	佐々木 誠	